

# シリーズ ひと



のぐち ひでお  
**野口 英夫さん**

白岡在住。白岡町スポーツ少年団本部長、埼玉県スポーツ少年団事業委員会副委員長、埼玉県スポーツ少年団の県本部員等要職を多数兼任。(財)日本体育協会日本スポーツ少年団からの依頼で7月20日から8月12日まで、第33回日独スポーツ少年団同時交流日本派遣団引率者としてドイツに派遣された。

## 「スポーツをやる体の下地づくりが

## スポーツ少年団の目的なんです」

日独スポーツ少年団同時交流とは、全国のスポーツ少年団の子どもの指導者をサポートする16歳から21歳までのシニアリーダー約100名と団長団、引率指導者で構成される派遣団とドイツの派遣団との交流



事業で、白岡町でも2000年にドイツの派遣団を受け入れた実績がある。

野口さんには以前から派遣の依頼があったが、都庁を定年退職し、都立高校に嘱託職員として勤めている今ならと引き受けることにした。

ドイツでのスポーツ事情を目の当たりにした野口さんは、日本とのシステムの違いについて話してくれた。ドイツでは午後4時半には仕事が終わわり、その後は毎日のように家族でスポーツクラブに行き、みんなでスポーツを楽しむ。一方で、一般的なスポーツクラブ

の年会費200ユーロ(約3万円)が払えない家庭も多く、公園でスポーツを楽しむ家族も多いとのこと。日本のような部活動というものは無いという。

「スポーツにかかる時間も体の大きさも日本と違う。これじゃドイツにはかなわないなと思いましたがよ。」そんな思いを肌で感じたという。

日本ではスポーツクラブではなくスポーツ少年団が普及しているが、その目的について「スポーツをやる体の下地づくりがスポーツ少年団の目的なんです。スポーツを好きになっ

てえればうれしいですね。中学や高校で違うスポーツをやってもいいんです。しかしその主旨を誤解している指導者もいる。」指導者を指導する立場だけに厳しい顔で語る。

そんな野口さんだが、帰国後も野口さんを慕って訪ねて来る学生たちの話になると「自分の子どもよりも年下の彼らがかわいくてたまらない」と目を細めて話す姿は先ほどとは違った一面を見せる。

最後に、小学生の保護者の皆さんに向けて「一生懸命スポーツする子どもたちのかわいい姿を見てやってください。それを見ないなんてもったいないですよ!」と笑顔で話してくれた。



「いつもいっしょ いつまでも仲良し」

井上 仁志くん(左 4歳)  
豊大くん(右 9か月)



「歩行器に乗っちゃった♥」

伊藤 琉生くん(8か月)



「いつも仲良し♪ず〜っと仲良し♪」

菊地 柚那ちゃん(左 2歳)  
大竹 陽向くん(右 2歳)



**お子さんの写真を募集しています** 氏名(保護者とお子さん)・

生年月日・住所・電話番号・写真にコメントを添えて、直接または、封書で郵送してください。年齢については、10月1日現在で掲載しています。

投稿先 〒349-0292 白岡町大字千駄野432 白岡町町民活動推進課広聴広報担当  
☎(92)1111 内線352